

2022年3月期 第3四半期

決算説明会

日本電産株式会社

Nidec
All for dreams



2022年1月26日

－ 注意事項 －

本プレゼンテーション及び引き続き行われる質疑応答の際の回答には、将来に関する見通し、期待、判断、計画あるいは戦略が含まれています。この将来予測に基づく記載や発言は、為替変動、製品に対する需要変動、各種モータの開発・生産能力、関係会社の業績及びその他のリスクや不確定要素を含みます。本プレゼンテーション及び引き続き行われる質疑応答の際の回答に含まれる全ての将来的予測に基づく記載や発言は、プレゼンテーションの日に入手可能な情報に基づいており、私達は、法令に定めのある場合を除き、このような将来予測に基づく記載や発言を更新する義務を負いません。また、この記載や発言は、将来の実績を保証するものではなく、実際の結果が、私達の現在の期待とは、実体的に異なる場合があります。このような違いには、多数の要素が原因となり得ます。これらの要素やリスクについては当社の継続開示及び適時開示等の記載をご覧ください。

表紙は、WHILL株式会社の折りたためるモビリティ「WHILL Model F」（左側写真）、並びにその駆動用として採用された当社モータ（右側写真）です。WHILL社のModel Fは世界最大のテクノロジー見本市「CES 2022」の「Accessibility」部門において日本企業で唯一「Best of Innovation Award」（最優秀賞）を受賞しました。詳細は当社Webをご参照下さい。 <https://www.nidec.com/jp/product/news/2021/news1217-01/>

■ 連結決算業績



(百万円)	20年度 第3四半期(累計)	21年度 第3四半期(累計)	増減率	21年度 通期見込
売上高	1,184,991	1,407,210	+18.8%	1,800,000
営業利益	115,509	134,631	+16.6%	190,000
営業利益率	9.7%	9.6%	-	10.6%
税引前利益	109,314	130,554	+19.4%	185,000
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	83,615	100,443	+20.1%	148,000
一株利益 (円)	142.75	171.67	+20.3%	252.68
対米ドル為替レート				米ドル=105円
平均…	106.11円	111.10円	+4.7%	ユーロ=117円
期末…	103.50円	115.02円	+11.1%	(4Q想定レート)

為替感応度：1円あたり米ドルは売上高100億円、営業利益11億円、ユーロは売上高19億円、営業利益4億円（全てFY21通期ベース）。

3

■ 第3四半期、連結決算ハイライト



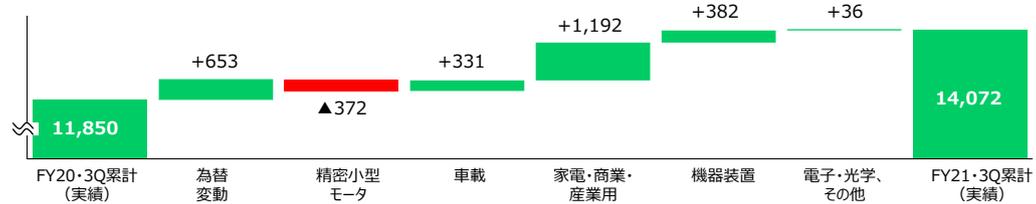
- 第3四半期（累計）の連結売上高は、前年同期比18.8%増収の1兆4,072億円となり、**過去最高を更新**。
- 第3四半期（累計）の営業利益は、前年同期比16.6%増益の1,346億円となり、**過去最高を更新**。税引前利益（同累計）も前年同期比19.4%増益の1,306億円となり、**過去最高を更新**。
- 第3四半期（3ヶ月）の連結売上高は、直前四半期比7.2%増収の4,965億円となり、3四半期連続で**過去最高を更新**。
- 期末配当金を**5円増配**し、年間配当65円へ。

4

2021年度3Q（累計）の前年同期比増減分析

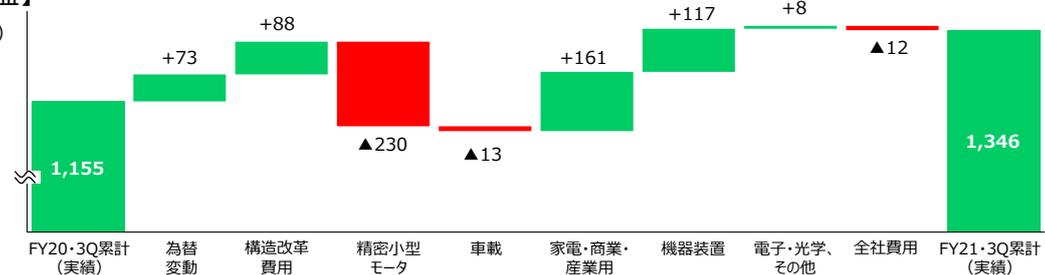
【売上高】

(億円)



【営業利益】

(億円)



5

2021年度3Q（3ヶ月）の直前四半期比増減分析

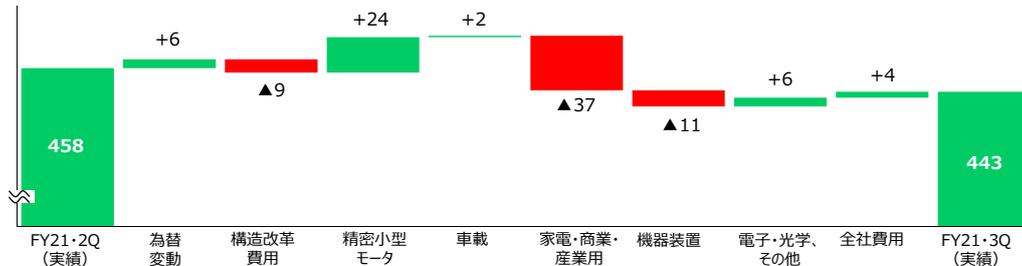
【売上高】

(億円)



【営業利益】

(億円)



6

新中期戦略目標

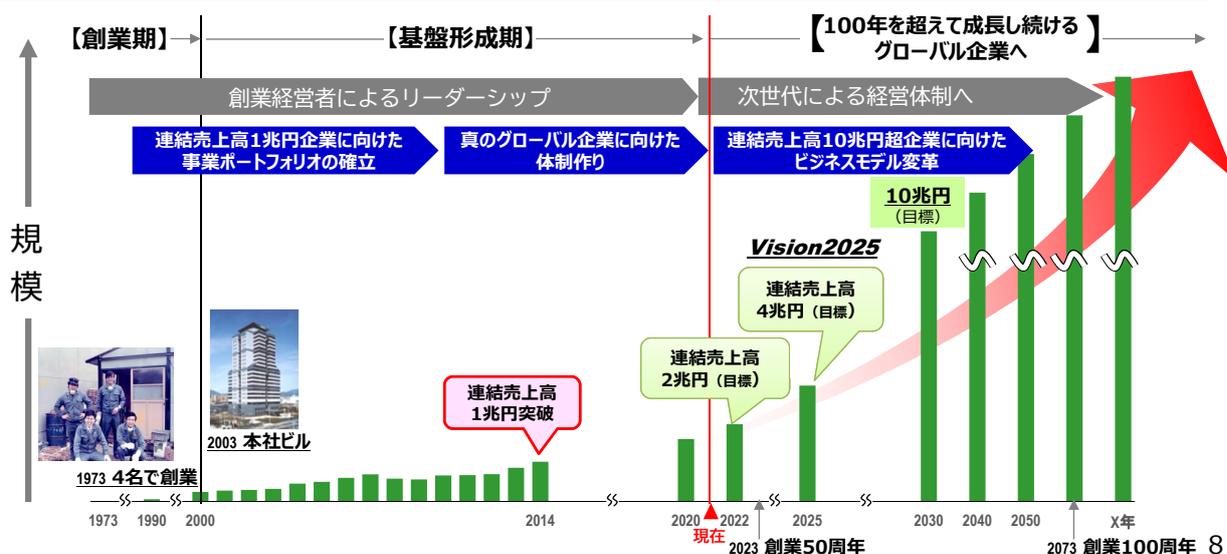
Vision 2025

7

■ Vision2025：更なる変革、Visionを手繰り寄せる経営！



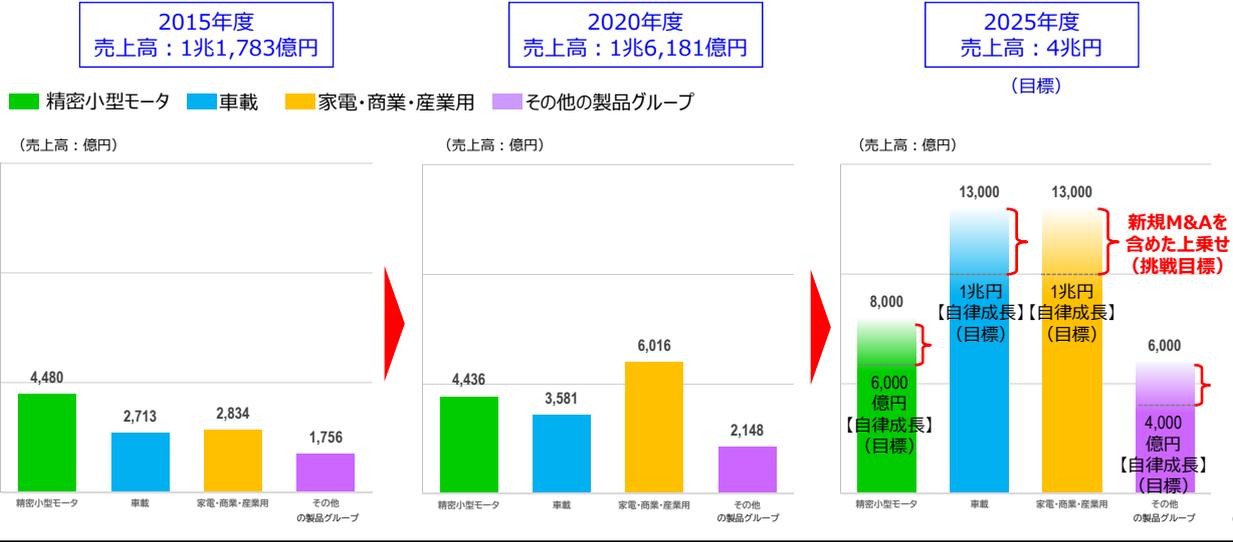
創業経営者のリーダーシップによる基盤形成期を経て、次世代経営者による新体制へと脱皮



Vision2025 新中期戦略目標の骨子：事業ポートフォリオマネジメント



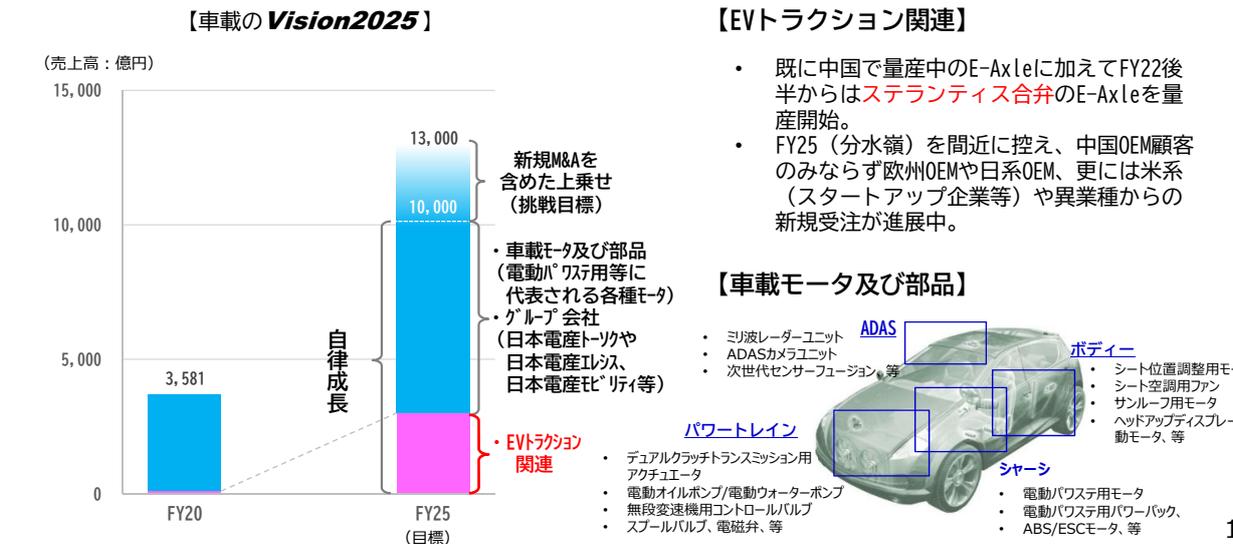
成長事業への積極投資による高い成長率を実現



車載：高成長への打ち手



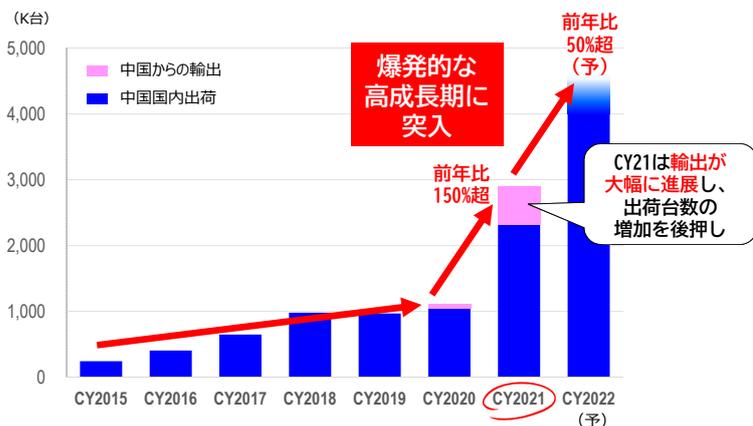
CASE革命による旺盛な電動化需要を待ち伏せし世界No.1の車載ハードウェア企業を目指す



■ 車載：中国市場におけるBEV販売台数推移

CY21の中国市場におけるBEV出荷台数はY/Y150%超増の非連続成長を遂げる

【中国市場におけるBEV出荷台数推移】



【中国製、ハイエンドBEVの状況】

- ・ 米国T社: 同社中国製（上海工場）の主力車種を、欧州市場に向けて輸出し拡販。
- ・ 中国N社: 2025年までに世界25の国や地域に向けた輸出を展開すると発表（21年12月）。

(出所：MarkLinesを元に当社推定)

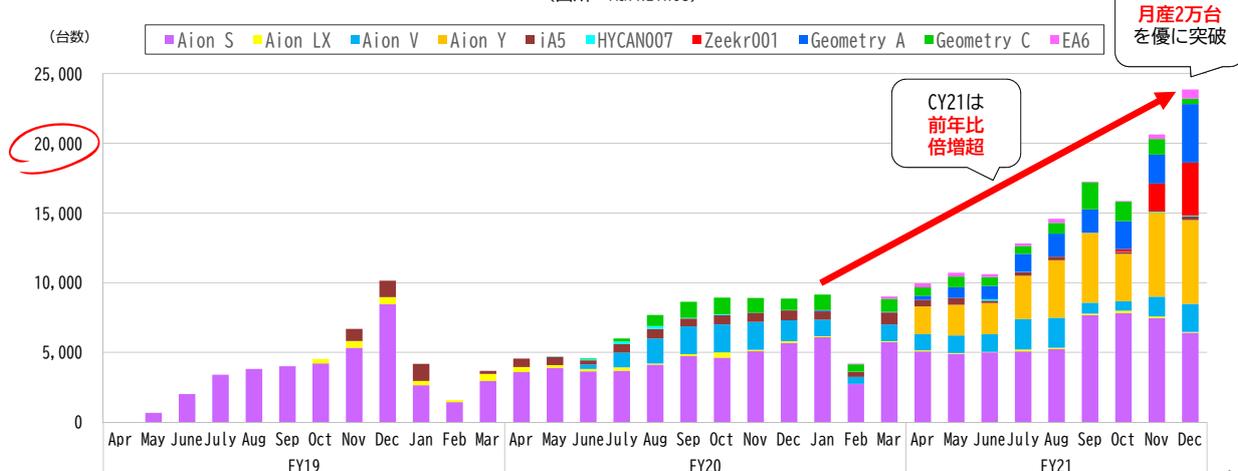
※BEV: Battery Electric Vehicle

■ 車載：当社E-Axle搭載車種の販売状況

当社E-Axle（トラクションモータシステム）採用車種の販売台数は、累計で約265千台超

【当社E-Axle採用車種の販売実績】

(出所：MarkLines)



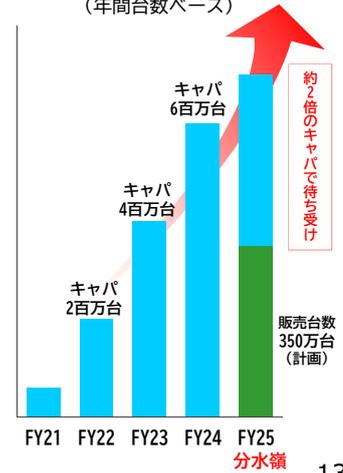
■車載：E-Axleの生産能力増強計画

FY25の分水嶺に備え、約3,000億円を投じて計画的な垂直立上げを実行



第7、第8、第9...の
グローバル製造拠点を
立案中

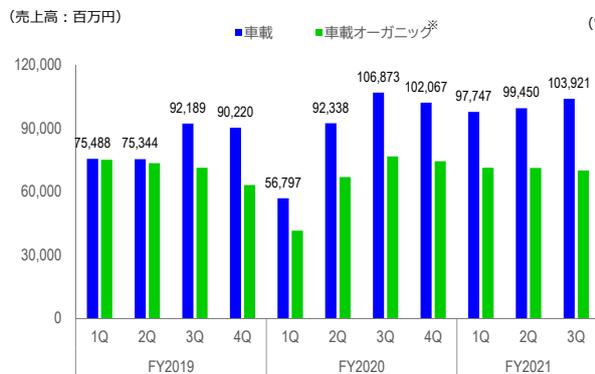
【E-Axleの生産能力計画】
(年間台数ベース)



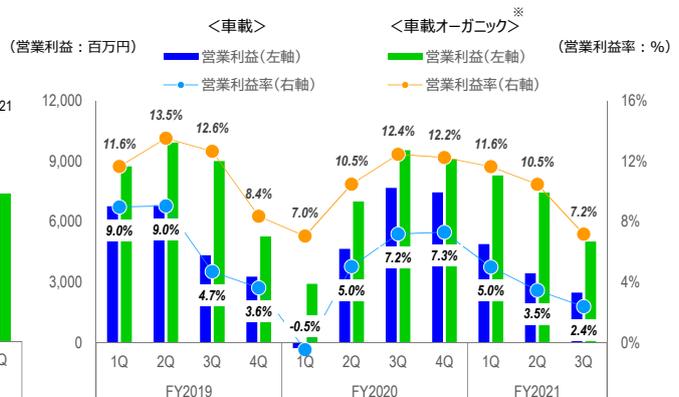
■車載：四半期別業績推移

半導体不足による売上機会の喪失と原材料高騰が収益を圧迫し今3Qはボトムを形成

【売上高の推移】



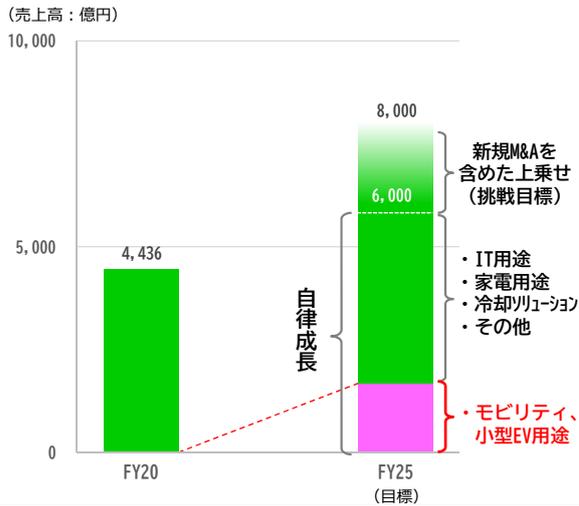
【営業利益額と営業利益率の推移】



※車載オーガニック...車載から、日本電産モビリティとEVTトラクションモータ事業による業績影響を除外したもの。

2輪車や小型車の分野でも内燃機関から電動化へのパラダイムシフトが急速に進展

【精密小型モータの Vision2025】



【モビリティ関連】

- インド・中国・ASEAN地域を中心に電動バイクの市場を形成。環境対策等を追い風とした高成長期へと今後突入。
- 当社は、特にインド・中国の2大市場を重点的に攻略。大手顧客へのモータ量産を開始。

【小型EV関連】

- 主に中国市場において複数の有力顧客より受注確定。
- モータ量産をFY22より開始。

FY22は精密小型モータのモビリティシフト元年。電動2輪&小型EVの複数案件立上げを視野

【当社モータの中国最大手電動2輪車メーカーによる初採用】



中国Yadea社「換電駅 01」



電動バイク用インホイールモータ

- HDD用スピンドルモータを手掛ける精密小型モータ事業本部が担当。
- HDDの小型化や高速化で培ったミクロン単位の磁気回路設計技術を活用。

詳細は当社Webをご参照下さい: <https://www.nidec.com/jp/product/news/2021/news1227-01/>

- 2輪車のグローバル市場は年間約60百万台規模と推定。
- 最大市場はインドであり、中国とインドネシアがこれに続く。
- 2輪車の世界においても電動化が進展。
- これらの国や地域を中心に電動2輪車の普及が今後加速すると予想。

電動2輪車、並びに小型EV (出力30kW以下) の受注が大きく進展し、FY22中に約10案件*の量産を視野。



電動2輪車

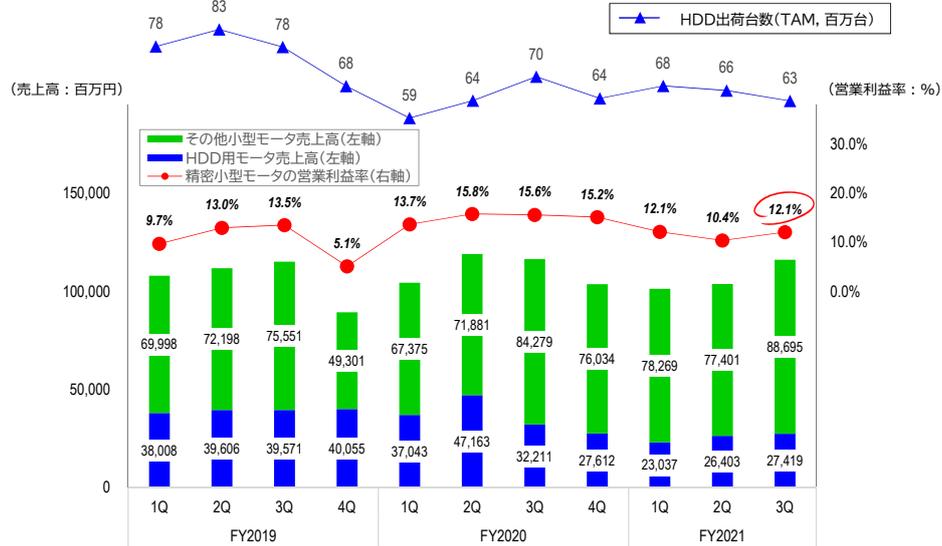


小型EV

*左記Yadea向け案件 (2021年9月より量産開始) を含む。

■精密小型モータ：四半期別業績推移

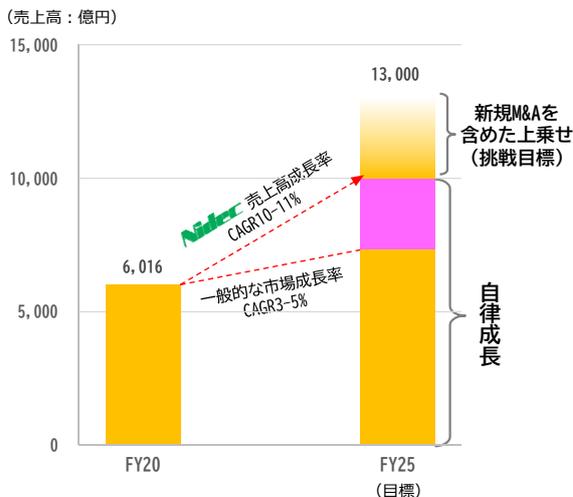
HDD用モータ市場の構造変化のなか、事業ポートフォリオの転換を断行中



■家電・商業・産業用：高成長への打ち手

海外事業の構造改革を着実に実行しつつ、家電・商業・産業用は新たな成長ステージへ

【家電・商業・産業用の Vision2025】



- 家電・商業・産業用の一般的な市場成長率は年率3-5%と想定も、当社はソリューション提案を通じた新需要を創造することで年率10-11%の売上高成長を目指す。

【成長ドライバー】



■家電・商業・産業用：四半期別業績推移

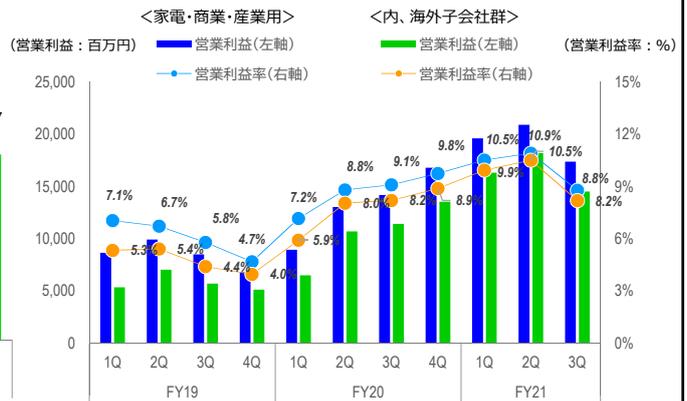


FY19・4Qを底に計6四半期持続した収益性改善は一服も15%達成に向けた活動を継続中

【売上高の推移】



【営業利益額と営業利益率の推移】

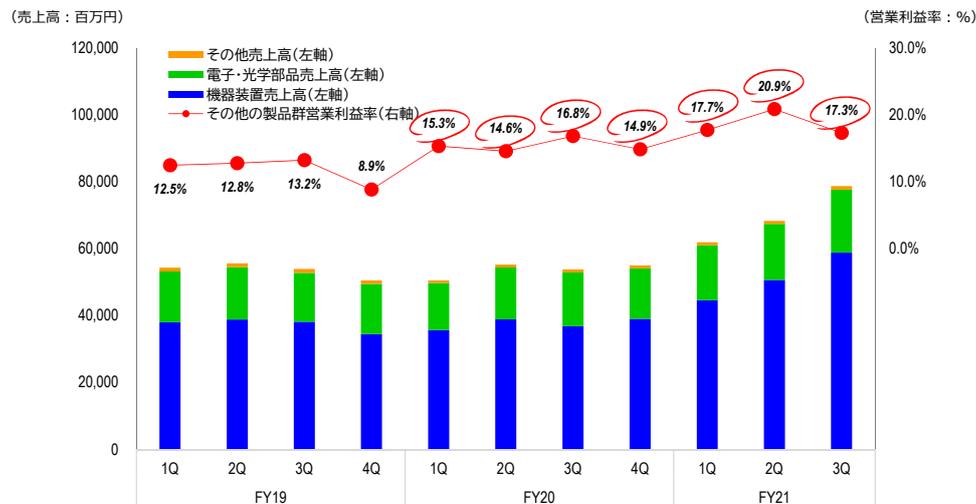


■その他の製品グループ：四半期別業績推移



* 22ページに記載の注記にご留意下さい。

その他の製品グループの営業利益率はFY19・4Qにボトム形成後、高水準で安定推移



■ OKK株式会社の第三者割当増資の引受に関する資本提携契約を締結[※]



日本電産マシンツールとのシナジーを利かせ、やるからには高収益総合工作機メーカーを目指す！

【OKKの概要】

会社名	OKK株式会社	
本社所在地	兵庫県伊丹市北伊丹8丁目10番地1	
設立	1915年10月	
資本金	6,283,076,312円	
役員体制	代表取締役社長 森本 佳秀 (同氏は本件引受後も継続して同役職に留任します)	
生産拠点	日本（兵庫県）、タイ	
事業内容	工作機械の設計・製造・販売、製品に関わる製品の据付、技術指導、アフターサービス等	
従業員数 [*]	連結758名、単独500名	
大株主及び持ち株比率 [*]	OKK取引先持株会	6.79%
	日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	5.76%
	株式会社日本カストディ銀行（信託口）	3.00%
	秋元 利規	2.27%
	株式会社りそな銀行	2.14%
	OKK持株会	1.82%
	OKK従業員持株会	1.69%
	株式会社日本カストディ銀行（信託口 5）	1.55%
	株式会社日本カストディ銀行（信託口 1）	1.34%
	川角 健司	1.31%

*2021年3月末時点

直近3ヶ年の財政状態及び経営成績

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
純資産（百万円）	20,176	10,735	8,768
総資産（百万円）	48,097	34,444	32,387
1株当たり純資産（円）	2,551.14	1,356.93	1,105.95
売上高（百万円）	26,459	21,348	12,083
営業利益（百万円）	631	141	△2,755
経常利益（百万円）	520	2	△2,474
親会社株主に帰属する当期純利益（百万円）	444	△9,159	△2,425
1株当たり当期純利益（円）	56.20	△1,159.27	△306.57
1株あたり配当金（円）	20.00	0.00	0.00



立形マシンングセンタ VM43R



グライディングセンタ GC43R



横形マシンングセンタ HM500S

※詳細は当社Webをご参照下さい：<https://www.nidec.com/jp/ir/news/2021/news1181-01/>

21



お問い合わせ先

日本電産株式会社 IR・CSR推進部

Tel : 075-935-6140

E-mail : ir@nidec.com

注記：IFRS第3号「企業結合」の規定を適用しております。

第2四半期連結累計期間の三菱重工工作機械株式会社（以下、「日本電産マシンツール」）買収により取得した資産、引き継いだ負債に関する公正価値が当第3四半期連結会計期間に一部完了致しました。これにより当連結会計年度の四半期業績の推移状況については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の見直しは反映された後の金額によっております。

22

業績推移・ 製品グループ別状況

■コロナ後の新「5つの大波」



コロナ禍で露呈した人類共通の課題を解決する日本電産のソリューションビジネス群

5G & サーマルソリューションの波
(キーワード：触覚、手振れ補正、放熱モジュール)
ファンモータ、ペーパーチャンバー、ヒートパイプ

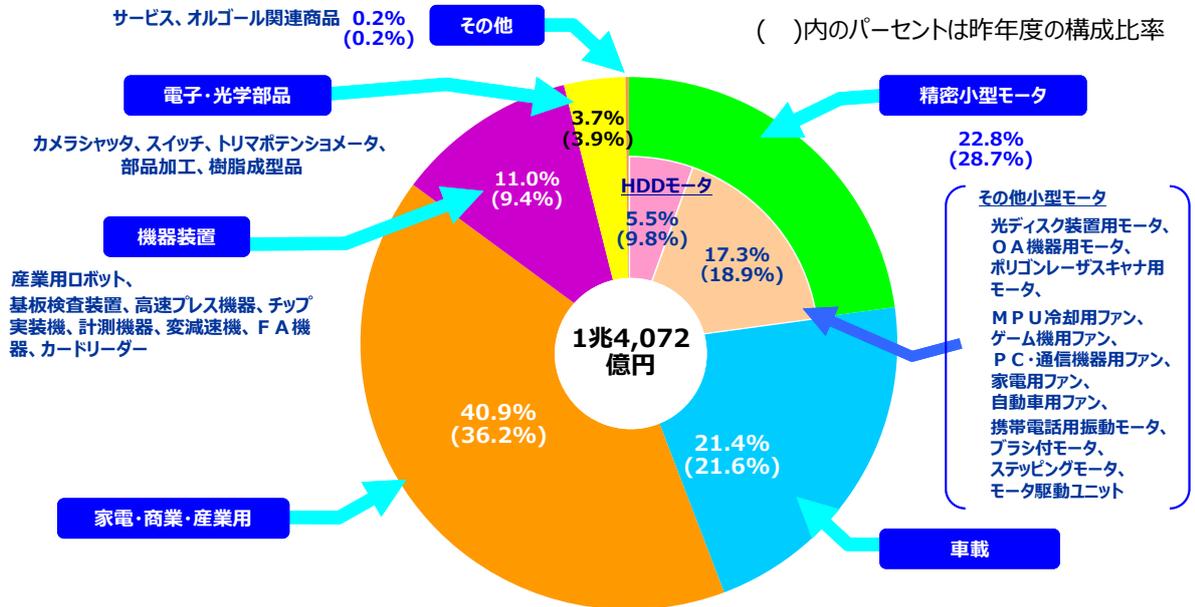
デジタルデータ爆発の波
(キーワード：高速・大容量、GAFA、巣ごもり)
ニアライン用HDDモータ

省人化の波
(キーワード：産業用ロボット、サービスロボット、物流)
無人搬送台車

脱炭素化の波
(キーワード：走る・曲がる・止まる、安全・快適、熱マネジメント)
車載用モータ、トラクションモータシステム (E-Axle)、ADAS関連製品

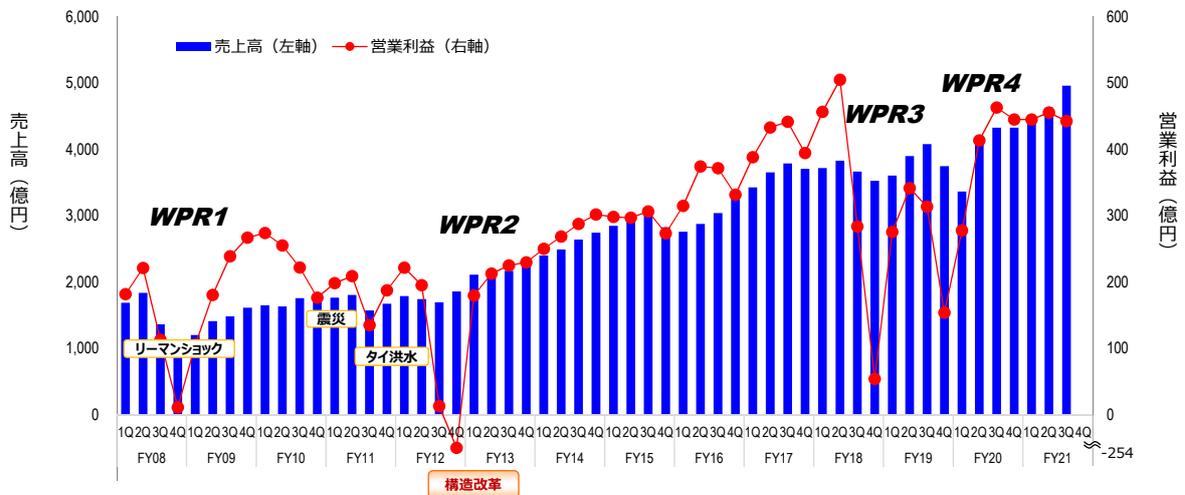
省電力化とコロナ後の波
(キーワード：殺菌、衛生、巣ごもり)
冷蔵庫用コンプレッサ、減速機、ドローン用モータ、家電用モータ

21年度第3四半期（累計）製品グループ別売上構成



四半期別の業績推移（売上高・営業利益）

WPR4 活動によるコスト構造改革が奏功し、需要回復と共に収益力の回復も着実に前進

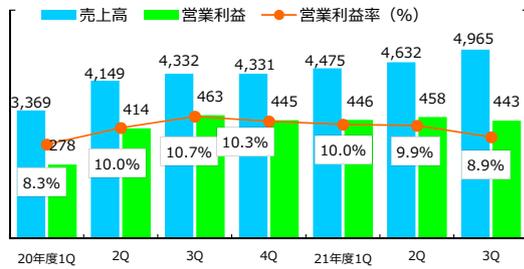


■ 連結決算ハイライト

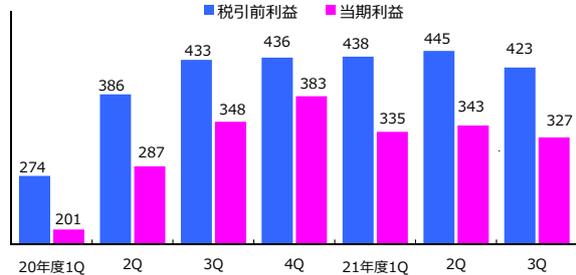


* 22ページに記載の注記にご留意下さい。 -All for dreams

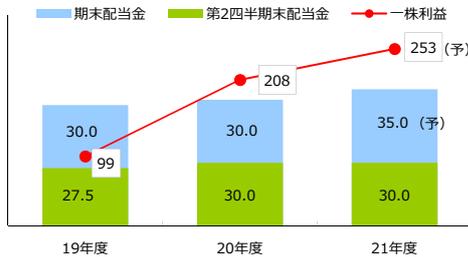
【売上高・営業利益の推移（億円）】



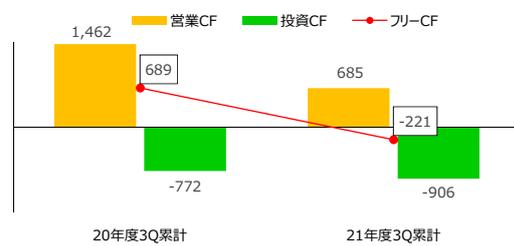
【税引前利益・当期利益の推移（億円）】



【配当金の推移（円）】



【キャッシュフローの推移（億円）】



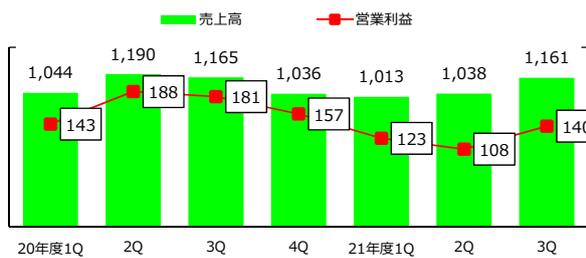
※2020年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。2019年度の期首に当該株式分割が行われたものと仮定して「一株利益」及び「配当金」を算定しております。

■ 製品グループ別業績推移

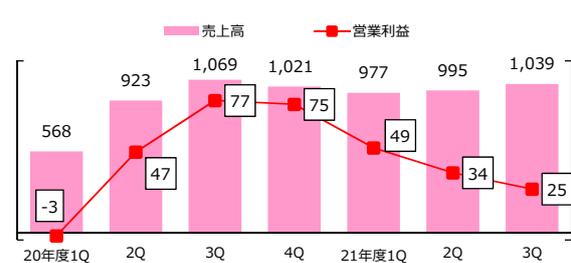


* 22ページに記載の注記にご留意下さい。 -All for dreams

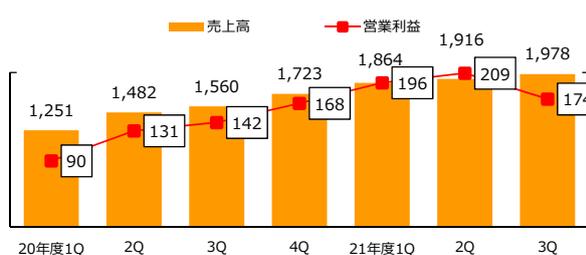
【精密小型モータ（億円）】



【車載（億円）】



【家電・商業・産業用（億円）】



【機器装置（億円）】

